

民主・梶原氏「一人で判断」

消費増税法案など採決欠席

消費増増税を柱とする社会保障・税一体改革関連法案が可決された26日の衆議院本会議で、県選出議員では民主党の梶原康弘議員(5区選出)が採決を欠席。ほかの民主議員はすべて賛成だった。

これまで小沢一郎元代表が率いた旧新進党や旧自由党に所属するなど、小沢氏に近いとみられている梶原氏は産経新聞の取材に対し、「最後まで悩んだが、一人で判断した。デフレの時期に消費税を上げていいのか」と話した上、反対しなかった理由について「党を分裂させたいわけではない。民主党の本来の理念を取り戻し政策実現を図りたい」と離党する意思がないことを明らかにした。

ただ、梶原氏の対応については「説明責任を果たすべきだった」(篠山市議)

この声も上がっており、県連は早期に梶原氏から事情を聴き、次期衆院選への影響などを見定める方針。一方、賛成に回った向山好一議員(2区)は「社会保障改革はいずれやらなければならぬ課題」、岡田康裕議員(10区)も「消費税増税は、与野党にかかわらず乗り越えるべきテーマ」と口をそろえた。

県内の野党各党からは今回の民主党内の混乱ぶりを厳しく追及する声が上がった。自民党県連の五島壮副会長(県議)は「小沢氏の行動は権力闘争にしかみえない」と語気を強めた。公明党県本部の赤松正雄代表(衆院議員)も「野田政権は直ちに退陣するか国民に信を問うしかない」とのコメントを出した。

全法案に反対した新党日本(田中康夫代表)(8区)

は「社会保障と税の一体改革」といいながら、消費税率の単体改悪」と野田政権だけでなく、賛成した自民、公明も批判した。